

1 9 5 3

ブリヂストン美術館

館 報

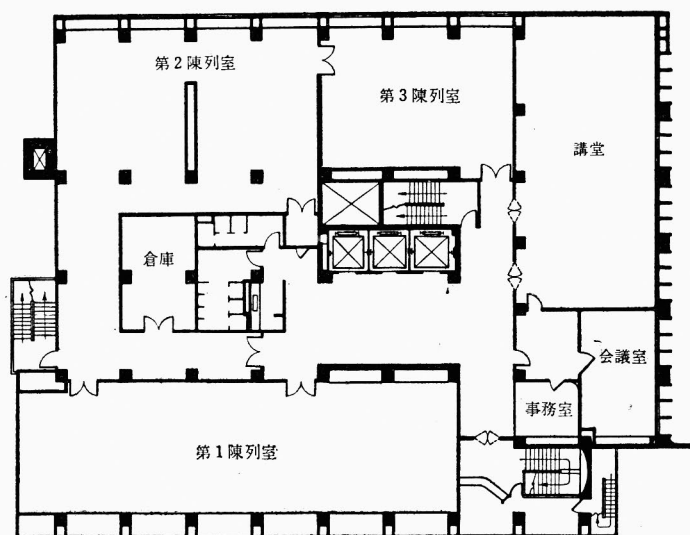
2

BRIDGESTONE GALLERY



1953

ブリヂストン
美術館
館報



1 緒 言	1
2 位置及び設備	1
3 機構並に運営	1
4 開館時間と入場料	2
5 28年度入場者	2
6 松方幸次郎氏を偲ぶ會	2
7 作品目録	3
8 追加新展示目録	6
9 舊松方コレクション展目録	7
10 クートー作品展目録	8
11 特別追加陳列目録	10
12 各國の美術館	11
13 土曜講座	15
14 雜 報	16
15 美術映画の製作	16
16 グ ラ フ	

緒 言

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎氏が多年に亘つて蒐集愛藏した内外の美術品を、社會公共の爲、文化向上の一端に貢献し度いという趣意に基き、開設されたものである。

位置及び設備

- 名 稱**——本美術館は“ブリヂストン美術館”と稱し、英文では“BRIDGESTONE GALLERY”と記す。設立者石橋正二郎氏を記念し、その姓を英名化したものである。
- 位 置**——東京都中央区京橋1丁目1番地 ブリヂストンビル2階
省線・東京驛八重州口下車 都電・八重州通下車 地下鉄・京橋（日本橋寄口）
- 面 積**——ブリヂストンビル2階全部400坪
- 部 屋 割**——第1陳列室、第2陳列室、第3陳列室、講堂、會議室、事務室、倉庫
- 照 明**——螢光燈と白熱燈の併用
- 換 氣**——エアーコンデションによる換氣及び冷暖房、濕度調整

機構並に運営

美術館は權威ある運営委員會の運営に委ねられている。構成次の通り（イロハ順）

- 顧 問** 細 川 護 立、和 田 英 作、淺 野 長 武
- 参 與** 今 泉 篤 男、入 間 野 武 雄、大 原 總 一 郎、河 北 倫 明、上 野 直 昭
久 保 貞 次 郎、矢 代 幸 雄、松 本 榮 一、福 島 繁 太 郎、秋 山 光 夫
- 運営委員會** **委員長** 團 伊 能
- 委 員** 石 橋 幹 一 郎、猪 熊 弦 一 郎、富 永 惣 一、嘉 門 安 雄、谷 信 一
- 主 事** 岩 佐 新 囑 託 徳大寺 公 英

尚、今回別に“映画委員會”が構成され、當美術館製作の映画に關する諸般の事項を協議運営することになった。

- 映画委員會** **委員長** 石 橋 幹 一 郎
- 委 員** 猪 熊 弦 一 郎、富 永 惣 一、嘉 門 安 雄、谷 信 一、團 伊 能
- 主 事** 岩 佐 新、馬 場 良 夫、中 島 哲 雄

開館時間と入場料

開館時間 午前10時——午後5時30分

休館 毎月曜日 年末年始12月29日——1月4日

臨時措置 7月1日——8月31日まで冷房の関係上、日曜日を休館日とした。

入場料 一般 ¥50. 学生 ¥30. 20名以上の団体 ¥20.

但し9月10日より税務関係の注意により下記の如く改正。

(一人) 一般 ¥50. 学生 ¥30. 十五歳未満 ¥20.

(団体) " ¥40. " ¥20. " ¥10.

入場料臨時措置 舊松方コレクション特別陳列の期間(3月24日～5月10日)に限り、入場料を次の如くした。

一般 ¥80. 学生 ¥50. 団体一人 ¥30.

尚10月1日「都民の日」には入場料を20圓均一とした。

昭和28年度入場者一覽

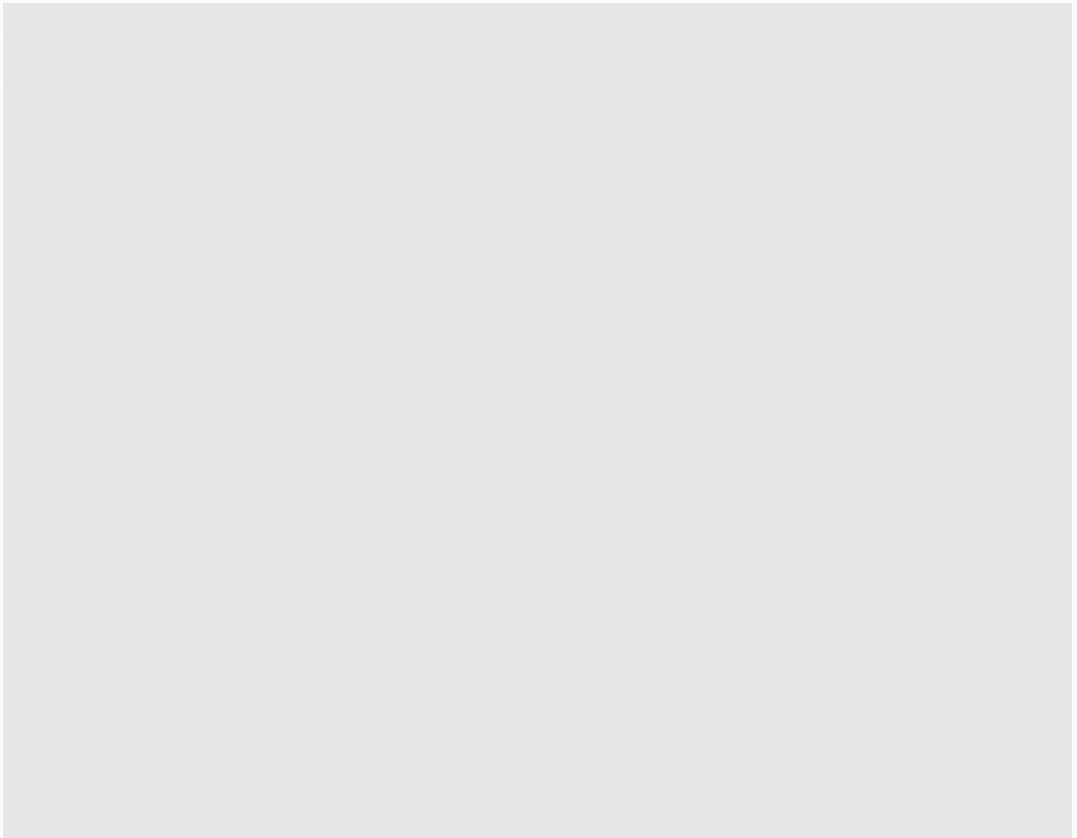
	一般	学生	小人	団体	合計	フリーパス	総計	有料者 一日平均
1月	4,660	2,607		152	7,419	304	7,723	323
2月	3,962	2,116		510	6,578	728	7,306	286
3月	10,187	7,902		283	18,372	955	19,327	766
4月	17,362	10,082		695	28,139	1,096	29,235	1,082
5月	10,323	7,024		982	18,329	892	19,221	705
6月	5,133	2,725		429	8,287	472	8,759	331
7月	4,517	2,945		255	7,717	518	8,235	285
8月	8,357	4,953		440	13,750	490	14,240	503
9月	5,424	2,689	132	0	8,245	453	8,698	317
10月	5,123	2,554	209	265	8,151	826	8,977	302
11月	4,341	2,556	121	90	7,107	631	7,739	284
12月	2,770	1,856	275	0	4,901	338	5,239	204
合計	82,159	50,009	737	4,091	136,996	7,703	144,699	403

(備考) 9月10日より別項の通り料金改正

松方幸次郎氏を偲ぶ會

今年(昭和28年)は、故松方幸次郎氏の三年忌に當るので、我が美術界の功勞者として感謝表彰する意味に於いて追悼會「松方幸次郎氏を偲ぶ會」を發企し、松方幸輔氏、松方三郎氏、松方重治氏その他御親屬の方々とも相談の結果、3月25日當館講堂で御一族はじめ關係者が一堂に會し、賑かにまた嚴かに催された。當美術館運営委員長團伊能氏の挨拶にはじまり、石井柏亭氏、松方三郎氏、石橋正二郎氏等の追憶談あり、終りに松方幸輔氏の謝辭があつた。尙會後は地下アラスカに於てカクテルパーティーを催し一同歡談、松方氏の靈を慰めた。

松方幸次郎氏を偲ぶ會出席者（順序不同）



ブリヂストン美術館作品目録

西 欧 作 品

1	ド	ラ	ク	ロ	ア	馬 習 作	(25×19cm)	
2	コ	ロ	ー			ヴィル・ダブレー	(51×46)	1835~40
3		〃				オルレアン風景	(38×28)	1845~50
4	ク	ー	ル	ベ		雪 景	(61×43.5)	
5	ギ	ー	ス			酒 場	(21.5×18.5)	
6	マ	ネ	ー			裸 婦 素 描	(41×27.5)	
7		〃				オペラの入口	(47×38.5)	1873年作
8		〃				メリー・ローラン	(42×37.5)	1880年作
9	ド		ガ			踊 子 素 描	(28×22)	
10		〃				舞 踏 の 稽 古	(89×46)	
11	ビ	サ	ロ			ブーヅヴァールのセーヌ河	(51×82)	1870年作
12		〃				ポントアーズの菜園	(55×46)	1878年作
13	モ	ネ	ー			洪 水	(73×54)	
14		〃				ヴェニスの夕陽	(93×74)	1908年作
15		〃				セ ー ス 河	(26.5×22)	
16		〃				斷 崖	(93×74)	1897年作

17	〃	睡蓮	(99×81)	1903年作
18	〃	睡蓮の池	(101.5×74.5)	1907年作
19	シスレー	村落	(93×66)	1866年作
20	〃	ブーヅヴァール	(74×55)	
21	〃	サンマンメ六月の朝	(74×53)	
22	セザンヌ	素描	(41×31)	
23	〃	静物	(20×18)	1873～77年作
24	〃	水浴素描	(14×11)	1880年頃
25	〃	水浴群像	(21×13)	1900年頃作
26	〃	サント・ヴィクトアール山	(81×65.5)	1898～1900年作
27	ルノアール	花	(31.5×25)	
28	〃	カーニュのテラス	(46×55.5)	1900年作
29	〃	裸婦	(55.5×44.5)	
30	〃	青帽子の女	(26×23.5)	1918年頃作
31	ゴーガン	ブルターニュ風景	(93×73.5)	1888年作
32	〃	風景	(53×46)	1889年作
33	ゴッホ	鯀	(37×44.5)	1886年頃作
34	〃	花	(38.5×46.5)	1886年頃作
35	ルドン	素描	(60×68)	
36	ルソー	牛のゐる風景	(55×47)	
37	シニャック	港	(73.5×54.5)	
38	〃	ラ・ロッシュル (水彩)	(27×21)	
39	ロートレック	ムーランルージュにて	(35×42)	
40	〃	アンバサドルにて	(32×42)	
41	ボナール	夜の室内	(52×44)	1899年作
42	〃	桃	(36.5×38)	1926年作
43	〃	海岸	(45×30)	
44	〃	風景	(62×63.5)	
45	マチス	畫室にて	(50×65.5)	1893年作
46	〃	横たわる裸婦	(41×33)	
47	〃	帽子の女	(123×64)	1914年作
48	〃	オダリスク	(46×55.5)	1926年作
49	〃	海水浴の女	(46.5×33)	1935年作
50	〃	リュリュと犬 (素描)	(45×55)	
51	ピカソ	顔	(46×38)	1923年作
52	〃	静物	(27×15.5)	1919年作
53	〃	マーガレットの帽子	(50×61.5)	1941年作
54	〃	卓子掛の上の静物	(51.5×66.5)	1946年作
55	ブラック	梨	(45×27.5)	1924年作
56	〃	黒い鳩 (色彩エッチング)		
57	〃	黒い水差とレモン (色彩エッチング)		
58	〃	金魚鉢 (色彩エッチング)		
59	〃	料理臺 (リトグラフ)		
60	〃	蔦 (リトグラフ)		
61	ルオー	ピエロ	(75.5×51.5)	1937年作

62	ラブレード	横たわる女	(55.5×38.5)	
63	ドンゲン	公園の道	(68×52)	
64	ドラン	聖母子	(27×22)	1913年頃作
65	ヴラマンク	風景	(55×48)	
66	デュフィ	静物 (水彩)	(59×46)	
67	ユトリロ	サントニ風景	(75.5×54)	1910年頃作
68	スゴンザック	風景	(58×50)	
69	ローランサン	二人の少女	(65.5×54.5)	1923年作
70	ザッキン	三人の女	(45×62)	
71	ペラール	緑の座像	(82×101)	
72	クラヴェ	鳥籠を持つ女 (リトグラフ)		

日本作品

1	浅井忠	縫物	(61×46cm)	明治35年作 (1902)
2	黒田清輝	ブレハの少女	(81×54)	明治25年作 (1892)
3	"	秋の山路	(61×81)	
4	"	百合	(61.5×81)	明治42年作 (1909)
5	藤島武二	天平の面影	(94×198.5)	明治35年作 (1902)
6	"	自画像	(47×32.5)	明治37~8年作 (1904~5)
7	"	ヴェルサイユの秋	(91×73)	明治39~40年作 (1906~7)
8	"	噴水のある池	(33×24)	明治40~42年作 (1907~9)
9	"	ヴェラデステの池	(33×24)	"
10	"	ルチェルン	(23×33)	"
11	"	糸杉 (フラスカティのフルコニエリ)		"
12	"	ボムベイ壁画模写	(35×26.5)	"
13	"	ボムベイ壁画模写	(35.5×26.5)	"
14	"	ボムベイ	(35.5×26.5)	"
15	"	ボムベイ遺跡	(35.5×26.5)	"
16	"	池	(26×31)	"
17	"	糸杉	(24×33)	"
18	"	ナポリ灣	(26×35)	"
19	"	ネミ湖	(35×26.5)	"
20	"	瑞西風景	(33×24)	"
21	"	イタリーの海	(24×32)	"
22	"	池畔の女	(30×31)	"
23	"	半裸婦人像	(30×31)	"
24	"	空 (ローマ)	(35.5×27)	"
25	"	雲 (ローマ)	(22.5×38.5)	"
26	"	ローマの遺跡	(26.5×35.5)	"
27	"	ローマの寺院	(33.5×27)	"
28	"	ローマ郊外	(24×33)	"
29	"	黒扇	(41.5×64)	"
30	"	チョチャラ	(38×45)	"
31	"	唐様三部作		
32	"	浪 (大洗)	(46×34)	昭和6年作 (1931)
33	"	五臓山の日の出	(73.5×53)	昭和7年 (1932)

34	〃	屋島よりの遠望	(54×73)	〃
35	〃	東海旭光	(91×65)	〃
36	〃	旭光 (新高山)	(46.5×39)	昭和9年作 (1934)
37	〃	奈良風景	(54×46)	
38	〃	蒙古の日の出	(42×55)	昭和13年作 (1937)
39	〃	海の日の出 (絶筆)	(19×24)	昭和18年作 (1943)
40	青木 繁	木 立	(33×24)	
41	〃	農 家	(31×29)	
42	〃	雪 景	(32.5×23)	
43	〃	園 威 彌 尼	(10.2×15)	
44	〃	丘に立つ三人	(14×16)	
45	〃	水 浴 (水彩)		
46	〃	天 平 時 代	(38×72.5)	
47	〃	天 平 時 代	(46×76.5)	
48	〃	海 の 幸	(70×181.5)	明治37年作 (1904)
49	〃	海 景	(35×71.5)	明治37～8年作 (1904～5)
50	〃	わだつみのいろこの宮	(70×181.5)	明治40年作 (1907)
51	〃	海	(15×10.3)	
52	〃	月下滞船圖	(41.5×57)	明治41年作 (1908)
彫 刻				
1	ロダ ン	考へる人 (ブロンズ)	(38.5cm)	
2	〃	青銅時代 (ブロンズ)	(63.5)	
3	〃	女の顔 (ブロンズ)	(37.5) (臺共)	
4	〃	青春 (マーブル)	(74)	
5	ブールデル	サフォー (ブロンズ)	(28)	
6	マイヨール	女の顔 (テラコッタ)	(30)	
7	デスピオ	アントアネットの顔 (ブロンズ)	(45) (臺共)	
8	ボンボン	鳥 (ブロンズ)	(27.4)	
9	〃	禿鷹 (ブロンズ)	(20.5)	
10	ザッキン	母子像 (石)	(75)	

追加新展示作品

28年1月6日	モネー	ヴェニスの夕陽
〃	ブラック	黒い鳩
〃	〃	黒い水差しとレモン
〃	〃	金魚鉢
〃	〃	料理臺
〃	〃	鳶
〃	藤島武二	ヴェルサイユの秋
28年1月9日	ルノアール	青帽子の女
〃 20日	ローマ時代	(大理石)
〃 31日	坂本繁二郎	放牧三馬
〃	〃	母子馬 (水彩)
〃	〃	金髪の女
28年2月1日	インカ陶器	(30點)
〃	ミレー	バルビゾンのミレーの家
〃	コロ	ツータン農場

〃 3月31日	ロ ダ ン	シャパンヌ像
〃 5月12日	ド ラ ン	ビリヤード
〃 6月28日	藤 田 嗣 治	婦 人 像
〃 7月30日	梅 原 龍三 郎	富 士
〃 8月8日	岡 田 三 郎 助	水 浴 の 前
〃 10日	梅 原 龍三 郎	樺
〃 9月4日	佐 伯 祐 三	シャトー街
〃 15日	ルノアール	素描
〃 10月1日	青 山 熊 治	桃
〃	〃	静 物
〃	佐 伯 祐 三	廣告とテラス
〃	〃	花
〃	國 吉 康 雄	桃
〃	〃	寝 た る 女
〃 15日	藤 田 嗣 治	ドルドーギュの家
〃	〃	人形を抱く少女
〃	〃	裸 婦
〃 29日	ヴ ラ マ ン ク	風 景
〃	デ ュ フ イ	ヨットの港
12月17日	ビ カ ソ	二 人 裸 婦
〃 18日	佐 伯 祐 三	ガ レ ー ジ
〃	安 井 曾 太 郎	り ん ご
〃	バ イ エ	牛

舊松方コレクション特別展

我が美術界の功勞者松方幸次郎氏を偲ぶ會の發企に引續き、舊松方コレクションの作品展示の話が起り、作品の行き先きを調べ、借用出来る範圍に於いて「特別展」を催すことになつた。所藏者の御厚意により、陳列作品57點、會期は3月24日から5月10日まで、入場者一日千名を越す日が多く、有意義にまた盛會裡に閉會した。

舊松方コレクション特別展覽會目錄

1953. 3. 24—5. 10

		松方幸次郎氏像 (1916)
1 (イギリス)	ブラングイン	風 景
2 (オランダ)	ヤン・ファン・ゴイエン	〃
3 (〃)	〃	〃
4 (〃)	アルト・ファン・デルネール	雪 景
5	作 者 不 詳	イスパニヤ女王
6 (イギリス)	ゲンスボロ	婦 人 像
7 (オランダ)	イスラエル	ホワイト夫人
8 (イタリー)	フランチェスコ・ゲルディ	サン・ジョルジオマジョーレ寺
9 (〃)	〃	ヴェネチヤ
10 (〃)	〃	リアルト橋
11 (イギリス)	タ ー ナ ー	イタリー風景
12 (オランダ)	アルベルト・コイブ	風 景
13	作 者 不 詳	白馬と騎士
14 (イギリス)	ワ ッ ツ	イタ山上のバリス
15 (ドイツ)	コルネリス・ヤンセン	ケント卿夫人
16 (フランドル)	ルーベンス	男 の 肖像
17 (オランダ)	レンブラント	聖ペテロと兵士達
18 (イギリス)	ロセッテイ	婦 人 像
19 (フランス)	エンネル	ニ ン フ
20 (スイス)	セガンチニ	花に眠る女
21 (ドイツ)	メンツェル	寺院 内
22 (フランス)	ギー ス	お 茶 時
23 (〃)	ミ レ ー	バルビゾンのミレーの家
24 (イギリス)	オーガスタス・ジョン	女 の 顔

25 (オランダ)	モ ー ヴ
26 (フランス)	モンチセリー
27 (")	"
28 (フランス)	ラファエリー
29 (")	コ ロ ー
30 (")	ク ー ル ベ
31 (")	セ ザ ン ス
32 (")	ド ー ミ エ
33 (")	マ ネ ー
34 (")	"
35 (")	ゴ ー ガ ン
36 (")	"
37 (")	"
38 (オランダ)	ゴ ッ ホ
39 (フランス)	ファンタン・ラ・ツール
40 (")	モ ネ ー
41 (")	"
42 (")	ビ サ ロ
43 (")	"
44 (")	"
45 (")	ユ ト リ ロ
46 (")	ローザ・ボンヌール
47 (")	シ ス レ ー
48 (")	"
49 (")	"
50 (")	ル ノ ワ ー ル
51 (")	"
52 (")	"
53 (")	"
54 (フランス)	ド ガ
55 (フラマン)	フ オ ス
56 (フランス)	モンチセリー
57 (オランダ)	ゴ イ エ ン
58 (フランス)	テオドル・ルッソー

牛	
公 園 の 女 達	
お め み え	
老 人	
ソータン農場	(1845)
海	(1867?)
静 物	
観 劇	
洒落者ブラン	(1880頃)
オペラの入口	(1873)
ブルターニュ風景	(1888)
風 景	(1884)
女 顔	(1886)
花	(1886)
自 畫 像	
海	
洪 水	
ポントアーズの菜園	(1878)
收 穫	(1882)
ブージヴァールのセーヌ河	(1870)
風 景	
兒 獅 子	
風 景	
サンマンメ六月の朝	
ループシャンスの庭にて	(1873)
カーニュのテラス	(1900)
少 女	(1887)
赤ネクタイの男	(1910)
静 物	
ソファーによるマネー	
子 供 達	
舞 踏 會	
風 景	
コロールの肖像	

ク ー ト ー 作 品 特 別 陳 列

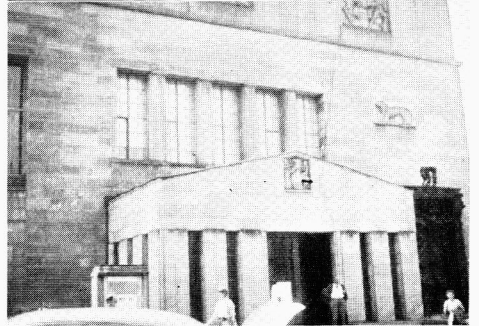
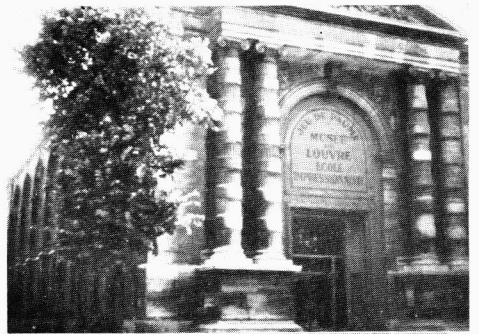
フランスのルシアン・クートーの作品が、鎌倉の近代美術館に來たのを機會に、當美術館でもこれを陳列した。

ク ー ト ー 作 品 目 録

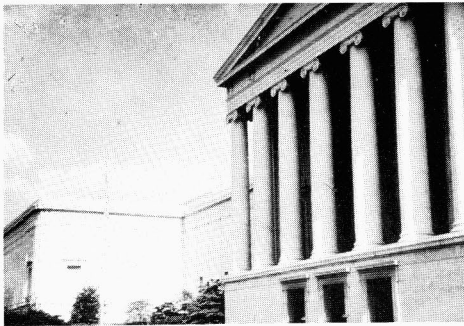
5月13日～6月14日

油 繪				
1	植 物 の 街	60×92cm	1944	
2	緑の廣場の三つの雲	36×78	1944	
3	七つのアイロン	114×146	1944	
4	その窓の前に	24×41	1944	
5	雨に濡れている帽子	22×35	1944	
6	プールの娘	35×24	1945	
7	幻想の寢臺	38×46	1946	
8	第三のモナコ人	35×24	1946	
9	椅子に變形されたパンの運搬人	61×46	1946	
10	小さな遊戲者	27×16	1946	
11	城	24×35	1974	
12	緑 色 の 部 屋	50×73	1947	
13	眠つている裸婦のエチュード	61×50	1947	
14	塔の近くの風景	60×73	1947	
15	パンの運搬人の家のなかに 見られるもの	38×61	1947	
16	白 い 脚 の 樹	38×46	1947	
17	青 い 脚 の 樹	38×46	1947	
18	パンのある最初の静物	50×61	1947	
19	パンの運搬人の戸棚	81×100	1947	
20	果 物 娘	33×24	1949	
21	ラコストの眺め	60×73	1949	
22	緑 の 時 の 海	46×55	1949	
23	穴のあいている他の岩	33×55	1950	
24	黒い點のある水浴者	38×46	1950	
25	ロワラルブル夫人	35×24	1951	
26	ヴィユアルブルロワルの斷片	60×73	1951	
27	ロアルアルブルとその反影	46×55	1951	
28	トリアノンの娘たち	114×146	1951	
29	若いロアルアルブル	46×38	1952	

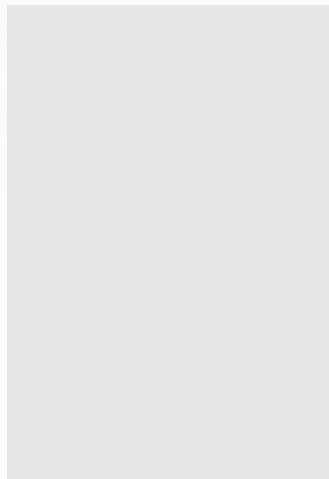
巴里印象派美術館
 巴里近代美術館
 巴里ルクサンプルグ公園にて



平川氏 石橋夫人 石橋正二郎氏



ワシントン ナショナルギャラリー



ナポリ 国立美術館

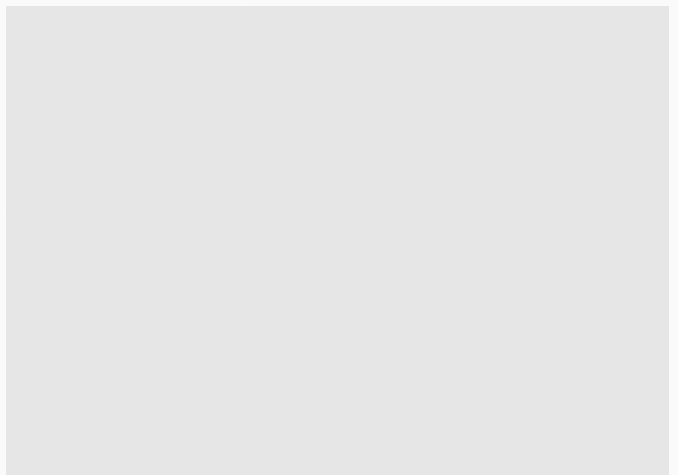


フローレンス 旧市政府前広場

ローマ円形劇場



ポンペイ遺跡



ヴェニス サンマルコ寺院にて 長谷川路可氏と石橋氏夫妻

秩父宮妃殿下美術館にお成りの

2月9日
ロックフェラー夫人
来館

ザッキン作品展より

パン運搬人の家の中に見られるもの

アリアノンの娘達

松
方
幸
次
郎
像

ブ
ラ
ン
グ
キ
ン
筆

松 方 幸 次 郎 氏 を 偲 ぶ 会

松
方
三
郎
氏
の
挨
拶

↑ 松 方 幸 輔 氏 の 謝 辞

← 同 会 に 於 ける
カ ク テ ル パ ー テ ー

男の像

ルーベンス

聖ペテロと兵士達
レンブラント

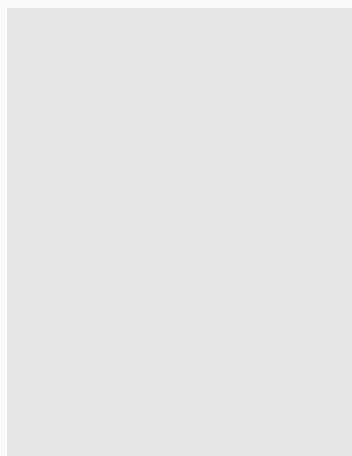


童子像

フォス

バルビゾンのミレーの家
ミレー

老人
ラファエリ

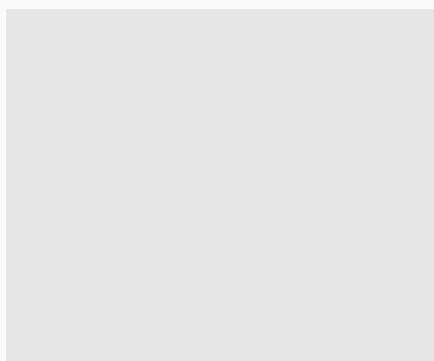


旧松方コレクション展
より

観劇

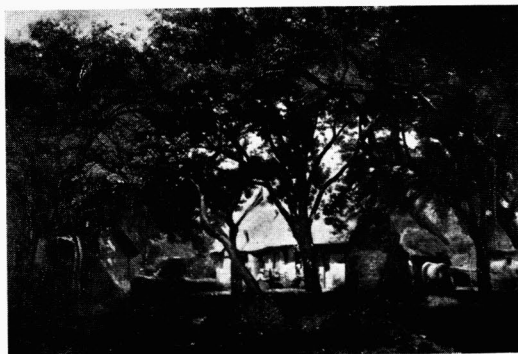
ドーミエ

海
クールベ

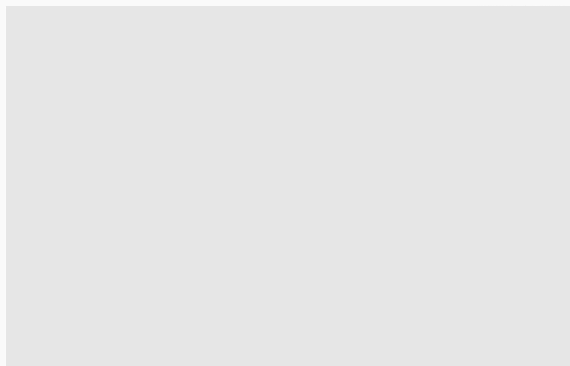


婦人像
ロセツタイ

ツータン農場
コロ



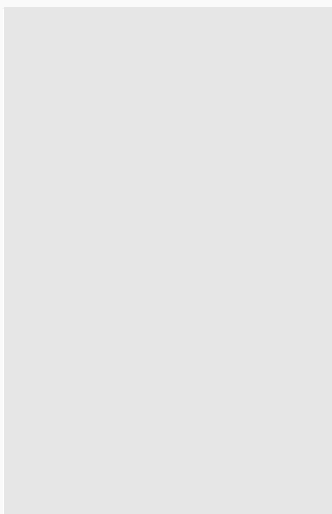
リアルト橋
グワルデー



女の顔
ゴッホ



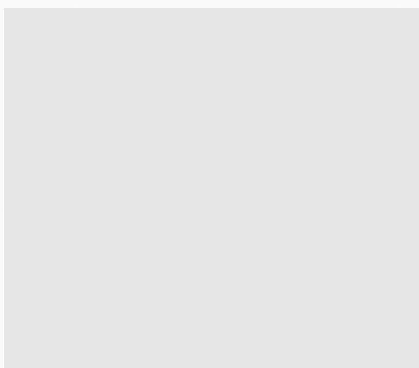
洒落者ブラン
マネー



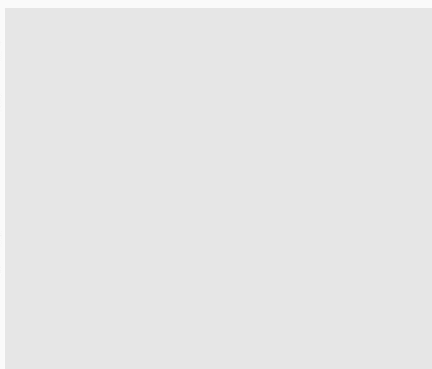
少女
ルノワール



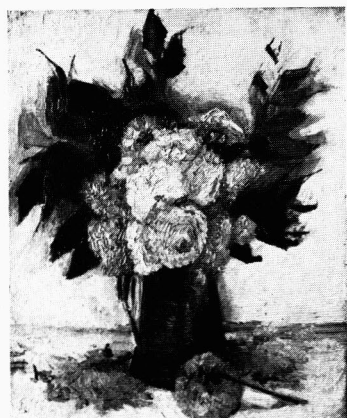
ソファールによるマネー
ドガ



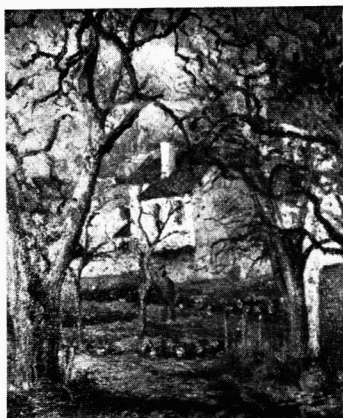
静物
セザンヌ



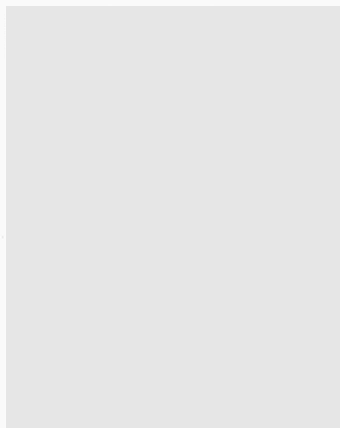
花
ゴッホ



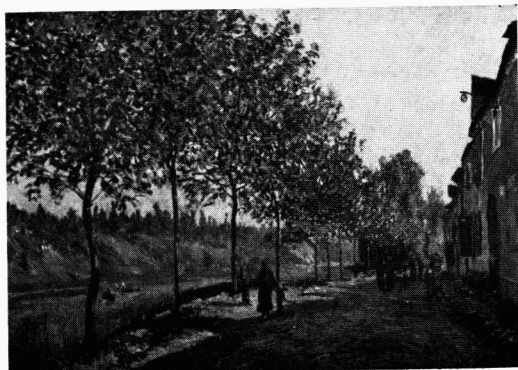
ポントアーズの菜園
ピサロ



老人
ラファエリ



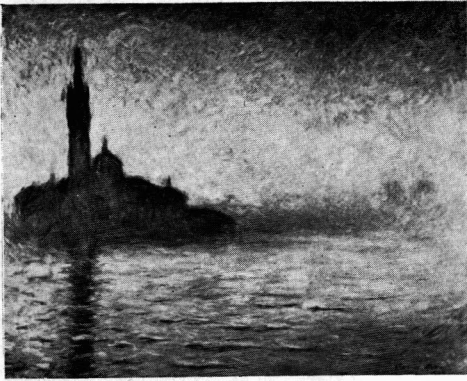
サンマンメ
六月の朝
シスレー



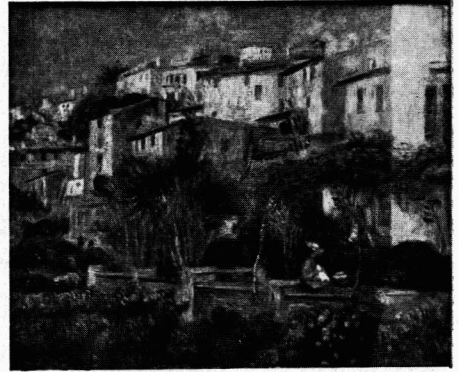
海
モネー



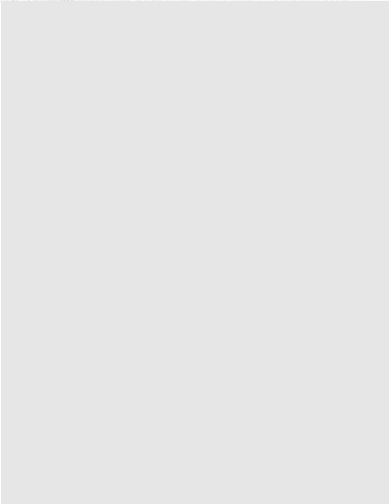
追加展示作品ヨリ



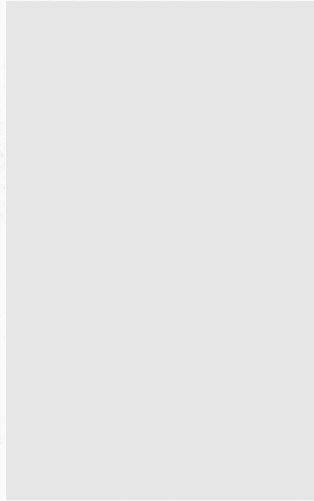
ヴェニス の 夕 陽 モ ネ ー



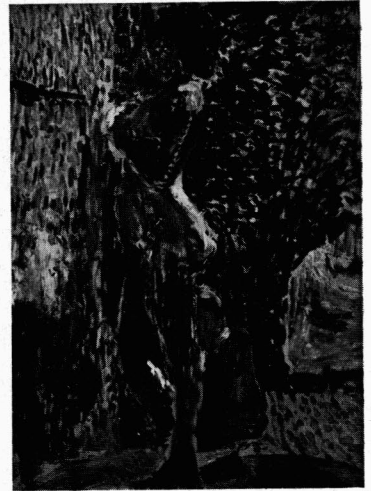
カ ー ニ ュ の テ ラ ス ル ノ ワ ー ル



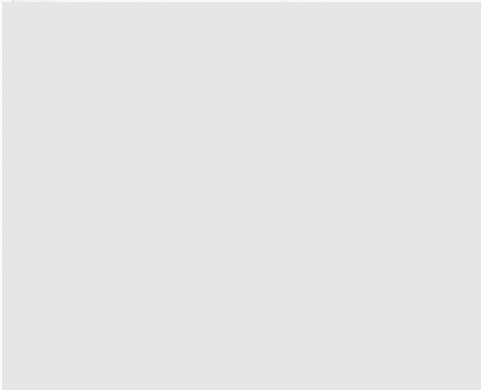
帽 子 の 女 ス ゴ ン ザ ッ ク



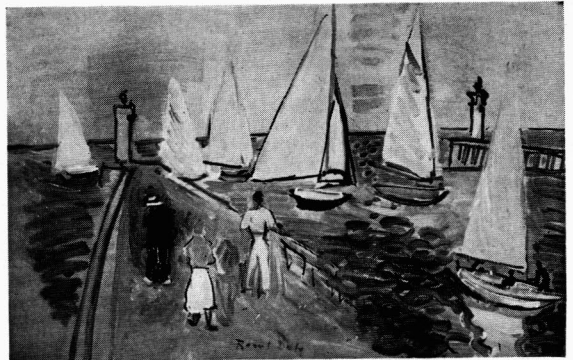
ピ リ ヤ ー ド ド ラ ン



画 室 に て マ チ ス



風 景 ヲ ラ マ ン ク



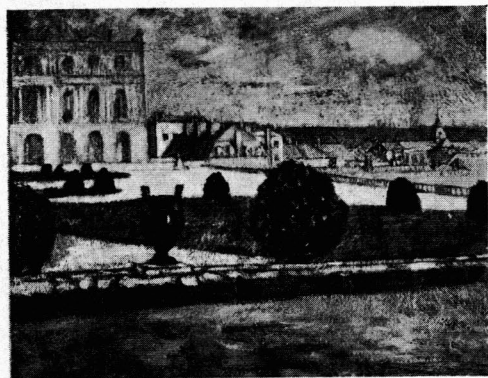
ヨ ッ ト の あ る 風 景 デ ュ フ ィ



ロ ー マ 彫 刻 (大 理 石)

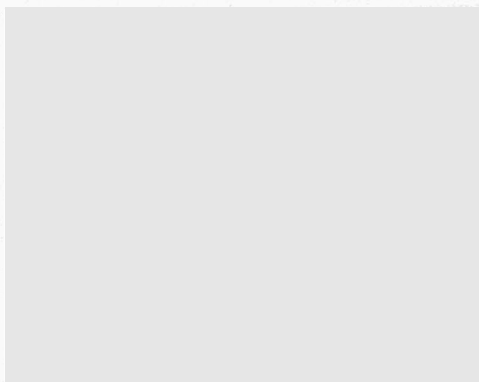


黒 い 壺 ブ ラ ッ ク



ヴェルサイユの秋 藤島武二

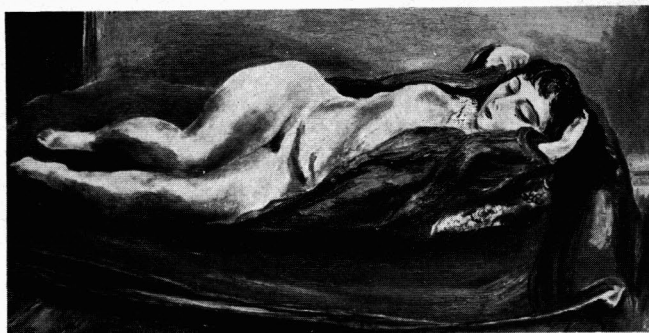
追加
展示
作品
ヨリ



放牧三馬 坂本繁二郎



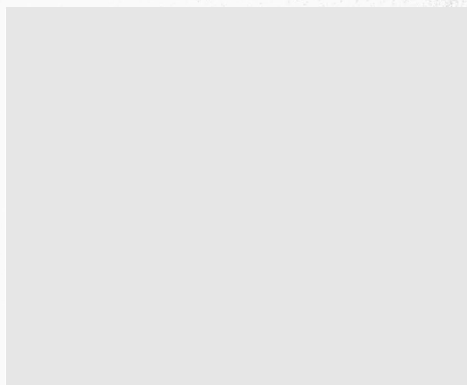
広告とテラス 佐伯祐三



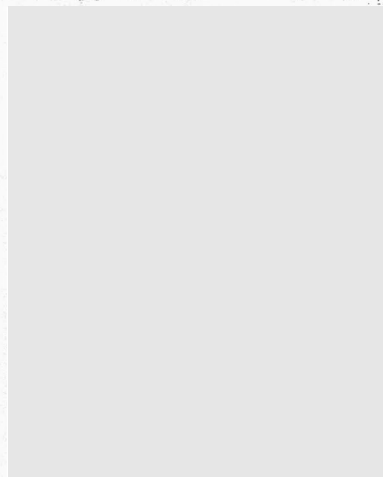
寝たる女 国吉康雄



麗子像 岸田劉生



ドルドーギュの家 藤田嗣治



裸婦扇 梅原竜三郎

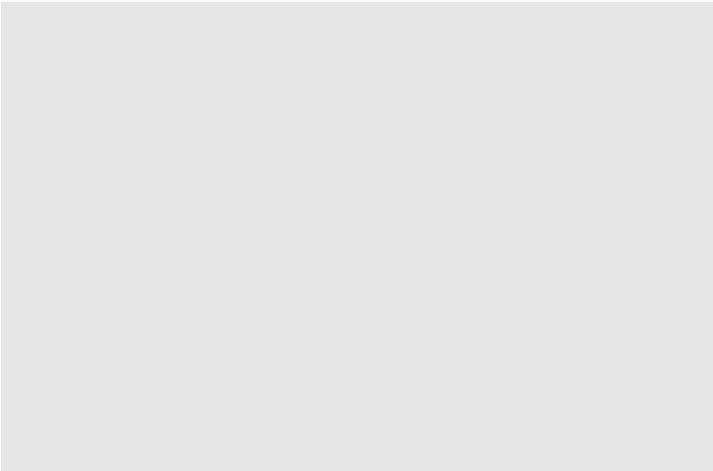


シャヴァンヌ像 ロダン

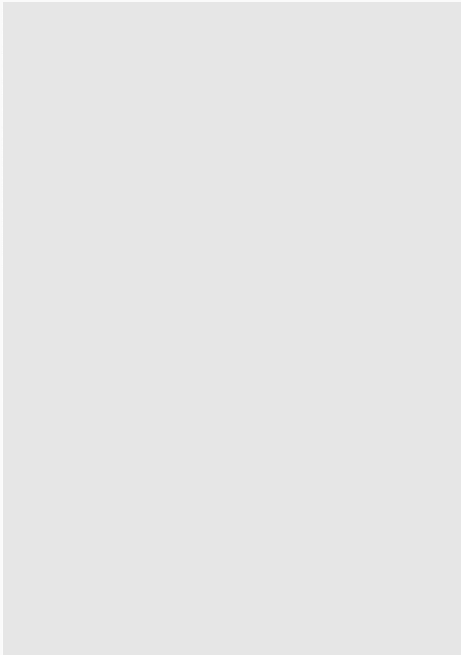


ばら 安井曾太郎

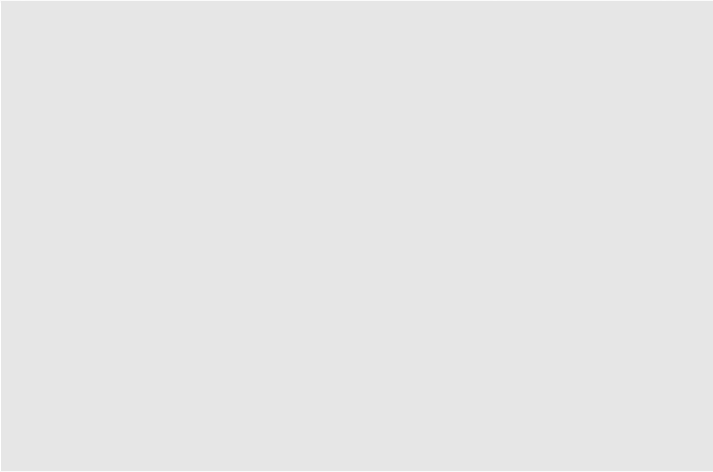
ブリヂストン美術館製作
映 画 ス チ ー ル



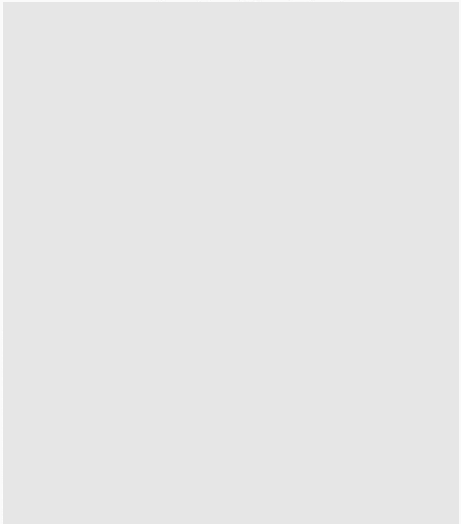
梅 原 竜 三 郎



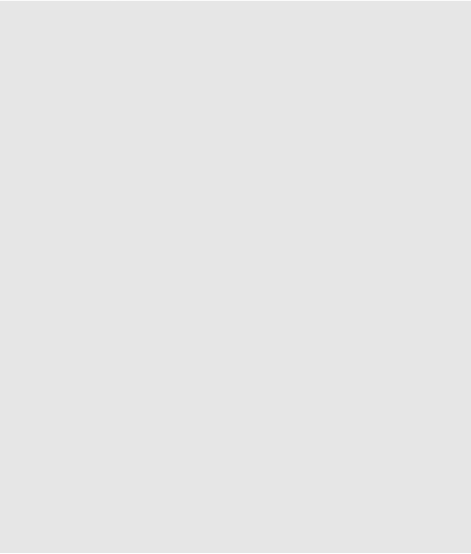
川 合 玉 堂



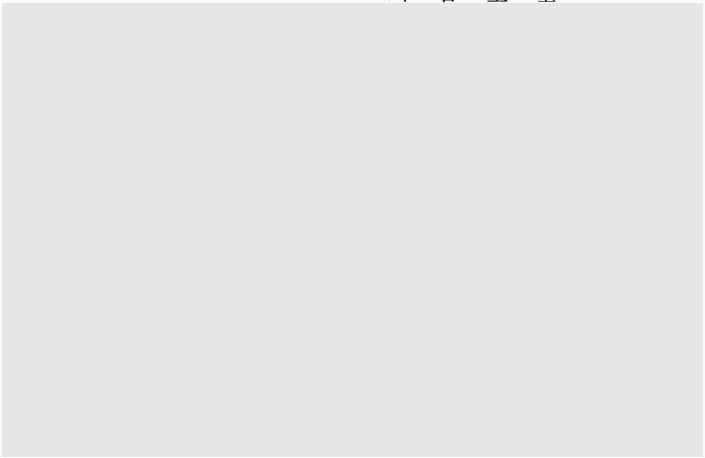
梅 原 竜 三 郎



川 合 玉 堂



高 村 光 太 郎



高 村 光 太 郎

デッサン・水彩

1	八月の廣場	45×63cm	1944
2	二つの樹	37.5×52	1944
3	親切な若い娘	31.5×46	1945
4	午 睡	31.5×46	1945
5	坐っている大きな女	46×31.5	1945
6	天使 娘	46×31.5	1945
7	若い 天使	46×31.5	1945
8	休んでいる人	46×31.5	1945
9	パリ 郊 外	46×31.5	1945
10	ブールの若い婦人	43×29	1945
11	二十七番目の婦人	43×29	1945
12	鼠がかつた人間	66×50	1945
13	アイロンの幻影	50×66	1945
14	クロススの思い出	14×21	1945
15	別の眠っている者	44×31.5	1946
16	影	35×27	1946
17	馬を見ている眼	27×35	1946
18	三つのしるしの馬	27×35	1946
19	いなかの紋章	50×66	1946
20	ランプを頭にのせたパンの運搬人	44×31.5	1946
21	印刷紙の修正	49×64	1946
22	行 爲 の 終 り	29×43	1948
23	點のついている人たち	29×43	1948
24	褐色の背景のある果物	15.5×11	1948
25	牧場のうえの果物	21×28.5	1948
26	會 話	21×28.5	1948

グワッシュ

1	青春の若者	35×26cm	1945
2	夜	15×23.5	1947
3	青 い 人	23.5×15	1947
4	點のある岩	26×35	1948
5	遅れてしまつた水浴者	21×14	1949
6	八月の 日	31×41	1950
7	夜 ひ ら く 口	21×14	1950
8	遠 方 の 風 景	30×37	1951
9	八月十五日の海岸	33×41	1952
10	海 岸 と 鳥	33×41	1952

11	鳥の歌の近く	33×41	1952
12	風景のなかの三つの花束	33×41	1952
13	緑 の 人	33×41	1952
14	晴着をきた人	27×35	1952

タピスリー (綴織の壁布)

1	魔法の手	280×340	1944
---	------	---------	------

オー・フオール (腐蝕銅版畫)

1	西洋碁盤をもつ人	16×11cm	1946
2	オルフェオニール	12.5× 8	1946
3	さまよう天使	22.5×14	1946
4	さまよう天使	22.5×14	1946
5	物語のある顔	19×14	1946
6	フェードルの椅子	16×11	1946
7	ラコスト城の三つの眺め	7.5×26	1947
8	夏休みの思い出	21×16	1947
9	夏休みの思い出	21×16	1947
10	サ ド 侯 爵	26.5×20.5	1948
11	サ ド 侯 爵	26.5×20.5	1948
12	十一に仕切つた人物	26×7.5	1948
13	十一に仕切つた人物	26×7.5	1948
14	カフカの「幼年」	26.5×20.5	1948
15	物語のある顔	19×14	1948
16	ジュカス近郊の若者	39×23	1948
17	ジュカス近郊の若者	39×23	1948
18	大きな果實とその近く	24×14	1950
19	七月の夜婦人	20×14	1950
20	サ ド 侯 爵	26.5×20.5	1950
21	夜 の 顔	35×27	1951
22	夜 の 顔	35×27	1951
23	黒 い 月	27×17	1951
24	黒 い 月	27×17	1951
25	黒 い 月	27×17	1951
26	黒 い 月	27×17	1951
27	遊 び	18×13.5	1951
28	脚	18×13.5	1951
29	脚	18×13.5	1952
30	近 郊 の 婦 人	19×14.5	1952

(目録中に挿入した解説)

リュシアン・クートー LUCIEN COUTAUD

リュシアン・クートーは、現代フランス美術界の新人として注目されてゐる一人であります。クートーは1904年南佛のメヌという村で生まれました。祖父は唐木細工の名工で、アルタダ美術館にその作品の二三が陳列されているといふことです。クートーはニームの美術學校に通つてゐましたが、1924年二十歳のころ巴里に出て、モンパルナスの美術研究所に通いました。その頃ルーブル美術館の原始時代のものに興味を持つたと同時に、デ・キリコ、マックス・エルンスト、パウル・クレー等の作品を知つたし、ブラックやピカソの作品からも得るところがあつたとクートーは云つてゐます。この頃丁度巴里で超現實主義(シュールレアリスム)の運動が新しく起つたときで、二十歳の若いクートーがこれに興味をもつたといふことは、彼の作品を理解する上に大切なことだと思ひます。

彼はまた早くから舞臺裝置と衣裳の仕事を始め、アトリエ座のアリストバーネスの「鳥」をはじめ、コメディ・フランセーズ(國立劇場)のポール・クロードルの「縋子の靴」ヴェルサイユの音樂祭のための「レ・セレマン」その他舞臺裝置と衣裳の仕事をつづけ、デコラトルとしてのクートーの名聲は廣く知られるにいたりました。

そう云へばクートーの作品がなんとなく演劇的、舞臺裝置的であるのもうなづけると思います。この他にまた最近近はタピスリー（綴織壁掛）の仕事にもたづさわ、ジャン・リュルサなどと共に、オービュッソンの工場で異色ある作品をつくつて居ります。彼が畫家として初めて作品を出したのは1941年のサロンドートンヌとチュイルリー展からで、1945年サロン・ド・メエの創立委員として参加し、毎年代表作を出品しています。又フランス版畫家協會にも銅版畫の作品を出品していますし、各地のビエンナーレ展にも招待出品して居ります。そして、巴里の近代美術館は勿論、アメリカのウォルスター、ベルギーのリエージュ、ブラジルのサンパウロ等の近代美術館にも陳列されています。斯うして彼の特異な畫風は世界的に認められつゝあるのであります。

二十世紀の幻想繪畫は、クートーにより傳統を新しく生かし、新しい表現の方法としたわけで、クートー自身も「月並な寫實的な事物を描かないで、悲劇的な、また超現實的な變形によつて自己の心理の幻想を語りたい」といつています。

特別追加陳列 (常設展示目録以外の作品)

6月16日～9月30日

1	コ ロ ー	ツータン農場	(44×64cm)	1845年作
2	ミ レ ー	バルビゾンのミレーの家	(50.5×44)	
3	ク ー ル ベ	海	(55×66)	1867年作
4	マ ネ ー	洒落者ブラン	(206.5×127)	1880年頃
5	ビ サ ロ	收 穫	(71×127)	1882年作
6	ド ー ミ エ	觀 劇	(23.5×33.5)	
7	ゴ ー ガ ン	風 景	(74×60)	1884年作
8	ルノワール	少 女 (パステル)	(61.5×46)	1887年作
9	シ ス レ ー	ブルターニュの水門	(58×73)	
10	カイユボット	雪 景	(82×57)	
11	ド ラ ン	ビリヤード	(140×88)	
12	スゴンザック	麥藁帽子の裸婦	(91×72)	
13	原田直次郎	少 女	(41×51.5)	
14	和田英作	讀 書	(55×73.5)	
15	岡田三郎助	雪 景	(26.5×21.5)	大正2年作 (1920)
16	岸田劉生	麗 子 像 (水彩)	(35×48)	大正9年作 (1920)
17	〃	路 傍 秋 晴	(73.5×61.5)	昭和4年作 (1929)
18	〃	靜 物	(46×36)	大正6年作 (1917)
19	梅原龍三郎	裸 婦 扇	(81.5×100)	昭和13年作 (1938)
20	〃	靜 物	(44.5×21)	
21	佐伯祐三	街	(74×61.5)	
22	前田寛治	裸 婦	(111×114)	大正14年作 (1925)
23	小出檣重	裸 婦	(47×70)	大正14年作 (1925)
24	〃	裸 婦 素描	(36×50)	大正15年作 (1926)
25	安井曾太郎	ば ら	(52×64)	昭和7年作 (1932)
26	〃	櫻	(55.5×61.5)	昭和20年作 (1945)
27	藤田嗣治	二 人 裸 婦 (エッチング)	(55.5×39)	昭和2年作 (1927)
28	〃	婦 人 像	(33×42)	昭和2年作 (1927)
29	〃	インキ壁の靜物	(27×22.5)	大正15年作 (1926)
30	〃	猫のいる靜物	(101×82)	昭和14～15年 (1939～1940)
31	〃	猫	(35×25)	昭和9年作 (1934)
32	〃	猫 (エッチング)	(36.5×29)	
33	坂本繁二郎	婦 人 像	(33×42)	
34	〃	放 牧 三 馬	(101×81.5)	昭和7年作 (1932)
35	〃	母 子 馬	(21×15)	

各 國 の 美 術 館

(石橋正二郎氏の日記より)

石橋正二郎氏夫妻は、3月31日(1953)羽田空港を出発、先づアメリカを経てイギリス、ベルギー、オランダ、西ドイツ、デンマーク、スウェーデン、フランス、イタリア、スイス、カナダ等を廻り、再びアメリカに立寄つて7月8日歸朝された。その間の日記から、各地の美術館その他美術に關する記事を抜萃してここに載せることとした。

- ◆4月4日(アメリカ・サンフランシスコ)美術館にてフランス特別展を見る。入場料50仙。印象派の名作が多い。
- ◆4月13日(ニューヨーク)嘉門氏の案内でモダンアート・ミュージアム參觀。またローゼンベルグ畫廊に於て名作特別展を見る、印象派及び現代の逸品28點、ゴッホ、モデリアニ、ロートレック、ボナール、ルノワール等。それからベナール展を見る。
- ◆4月16日(ニューヨーク)メトロポリタン・ミュージアムに行き嘉門氏の案内で日本美術展と同館の綜合陳列展にて、名作が多数を見る。午後フリック・コレクションで佛英、スペインの名作を見た。フリック氏は米國獨立當時、ワシントンを財的にバックした當時一流の財産家であつた。
- ◆4月24日(イギリス、ロンドン)テイト・ギャラリーを觀る。ターナー、ゲンスボロー多しフランス印象派もまた多し。
ナショナル・ギャラリーを觀る。チチアン、チントレット、ルーベンス、バンダイク、レンブラント、グレゴ、ゴヤ、ゲンスボロー、レーノルズ、ターナー、多く、フランス印象派、コロ、マネその他。
- ◆4月25日(ロンドン)ブリティッシュ・ミュージアム。世界各國の古物美術品が陳列されている。彫刻、レキトス、インカ、日本、支那、印度のものも多数ある。
ウオレスコレクションも見る。
- ◆4月28日(ベルギー、ブラッセル)オールド・アート・ミュージアムにて、ルーベンスの大作20點、小作10點は壯觀である。ブリューゲル、レンブラント、クライヤー等。ゴイエンの地球の誕生、戦争と平和、マリヤの誕生を見る。
- ◆4月29日(オランダ、アムステルダム)ナショナル・ミュージアム——レンブラントの夜の出陣圖は No.1 である。フェルメールの牛乳絞り婦人圖は、ニューヨーク、メトロポリタンから100萬弗で買いたいといつてきているが賣らないとのことである。
- ◆4月30日(オランダ、ヘーグ)ヘーグ・アート・ミュージアムでゴッホ百年記念展を見る。名作のほとんど全てを見ることができた。浮世繪展も併立して催されていた。
- ◆5月3日(ドイツ、ハンブルグ)ハンブルグ美術館行。メンツェルその他ドイツ畫家のものが多い。フランスのものでは、コロ、マネー、ドラクロア、ロートレック、ルノワール等の名作が多い。入場料40仙。

◆5月8日（スウェーデン、ストックホルム）**ナショナル美術館**に行く。ボッチェリ、ルーベンス、レンブラント、ゴヤ、グレコその他フランス印象派が多い。

◆5月14日（デンマーク、コペンハーゲン）**グリツプス・テケツト・ミュージアム**を見る。ゴッガン、ドガ、コロー、マネー、ドラクロア、ロダン彫刻、エジプト及びギリシャ彫刻が多い。

◆5月17日（イタリア、ローマ）**テルメ国立美術館**を観る。ローマ時代の大浴場、デオクレティヌス皇帝の作ったもので、モザイク多し。新築して二週間前に開館したばかりなので、入場者で雑踏し賑っている。ギリシャその他ヴィナスの名作を驚く程多く見る。

ボルゲーゼ美術館、ナポレオンの皇后の有名な彫刻を見る。

◆5月18日（ローマ）**ヴァチカン**見物に行く。ビザンチンスタイル、テンペラ、13世紀ジョット派フレスコ壁画、ラファエル最後の畫であるキリスト昇天圖、ダヴィンチの畫（未完成）聖者エロニモ像、2200年前のエトルスク壁画結婚の神秘等珍らしく、またミケランジェロの壁画で九ケ年かかった最後の審判、61歳から15ケ年かけて描き上げた地球の誕生等もある。待合室三室にあるラファエルの壁画アカデミヤ學園（アテネ學園）の圖は、ソクラテス、プラトン、アリストテレス等哲人たちが、理想と現實を語っているところであるが、ミケランジェロと競争して12年間で描いたものであるという。ヴァチカン寺院内ヴィナスの彫刻にはコピーのものが多数ある。世界各國から観光客が押しよせ一日に二萬人にも及ぶという、雑踏していた。

エトルスク博物館、ブラヂェリヤは戦後開館したが、三千年以前の銅器やビニヤネール出土品（レキトス）がある

ピカソ特別展を見る。50萬弗で國連の壁画になつた平和と戦争の下圖が問題となつている。

サンペトロ寺院、世界一の寺院である。ミケランジェロの設計で、工期180年を要した驚くべき大規模の建造物で、内にあるミケランジェロ作キリストの死體を抱いているマリヤの彫刻、豫言者モーゼの像の彫刻等を観る。

◆5月19日（イタリア、ナポリ）**国立美術館**。有名なお尻のヴィナスの彫刻をはじめ、壁掛、大理石彫刻が多い、三千年前、世界一の女像サホーの畫、三人男女の壁画、ベラスケスの名畫、チチアンの120號臥神、キューピット、アポロ、ダナエ、金貨を撒くギリシャ神話等を見る。

ボンペイまで往復50キロをドライブする。紀元79年にヴェスヴィアスの爆火で埋没した遺跡。藝術味豊かな神殿や、華奢な住宅、榮華の夢の跡、有名な壁画等多數見ることが出来た。

◆5月21日（イタリア、フローレンス）**ウフィチ美術館**。油繪はボッチェリーの春、ヴィナスの誕生、共に150號である。ダヴィンチの受胎告知、デューラー作アダムとイヴ、ペロネーズの受胎告知、チチアンのフローラ（20號）、横たわるヴィナス（100號）、ルーベンスの大作三人の恵まれた女、ラファエルのマリヤ（50號）、ミケランジェロの聖家族等の名畫を見た。

アルケオロジー・ミュージアム（古代美術）エトルスク陶器、ブロンズ彫刻、壁画等が特に多い。

サンマルコ美術館、フランゼリコの壁画十字架は、神々しく、陰惨なところがなく、温か

い畫である。受胎告知、エトルスク風の壁畫。

アカデミヤ・ベルアルテ (美術學校) ミケランゼロの彫刻ダビデの像、ほか未完成品が多数陳列されていた。

◆5月22日 (イタリー、ヴェニス) 船に乗り、**アカデミヤ・ギャラリー**を見に行く。チチアンの初期大作、チントレット、ペロネーズ神殿に捧げられた少女時代のマリヤその他。マンテナヤ名作フランチェスカ、ピエロベルリーニ、ジョルジョウネ、チエボロの作品等が多い。

◆5月24日 (ミラノ) **サンタマリヤ・デ・ラ・グラチエ**では五百年前のレオナルド・ダヴィンチ作最後の晩餐の大壁畫が第二次世界大戦の空襲で崩壊したが、その拾い集めに四年かかつて復舊した。木葉微塵に破壊された當時の寫眞を見て、どうして拾い集められたか不思議に思われた。1600年ダヴィンチの弟子ルイニの女水浴の壁畫も空襲で破壊されたものを復舊している。水浴の畫祖でセザンヌもこれを學んだといわれている。ミラノ派のカリアリの描いたカナの結婚大作、キリストの奇蹟、15世紀マンテナヤのキリスト臥像と、マリヤとキリストの死、ベルリーニのマリヤ、ブラマンテの壁畫、ピエロ・デ・ラ・フランチェスカの畫ラファエロ25歳の作マリヤとヨセフとの結婚、ダヴィンチの大作、ルーベンスの大作、レンブラントの婦人像。

モダン・アート・ミュージアムを観る。

◆5月27日 (スイス、チューリッヒ、ベルン) **クンストハウス近代美術館**を見る。玄関の右側にロダンの地獄門、左側にブールデルの立琴 (サフォー) が置いてある。館内にはモネの池の大作三枚のほか、コロー、セザンヌ、クルーベ、ドガ、ロートレック、ゴッホ (多数)、ボナール (多数)、ルノアール、モデリアニ、ルオー、ルウソー、ピカソ、外ドイツ派。建物は三階建、延千坪位で中型であつた。

◆6月1日 (フランス、パリ) 朝、荻須夫妻の案内で**ルーヴルの別館ジュ・ド・ボム**で印象派コロー、マネ以後の繪だけ集め陳列されているのを見た。午後2時半から**ルーヴル美術館**にてロダンの師カルポの彫刻、ダヴィンチのキリストの最後の晩餐の模寫、モナリザ、ラアエルの庭作り、ベラスケス、グレコ、ジョルジオネ、チチアン、クルーベの大作、セラコールの大作、ドラクロアのシオの虐殺、ダヴィッド、ミレーの晩鐘等を見、それよりモンマルトルのサクレクール寺院に詣り、近傍の畫題となる建物を見せてもらつた。

◆6月3日 (パリ) **ルーヴルの彫刻陳列**を見る。エジプト、ギリシャ、シリア、インド等、またフランスの古代家具裝飾品を見る。ミロのヴィナスは代表作であつた。

午後美術品の**オークション**の盛況を観察したが一級品は稀れで、ほとんどが三級品以下である。

◆6月4日 (パリ) **現代美術館**に案内され、マイヨール、ボンボン、デスピオ、ザッキンの彫刻と、ピカソ、マチス、ブラック、マルケ、ルオー、ボンナール、モデリアニ、ビヤール等の油繪を見た。

◆6月5日 (パリ) 荻須夫人の案内で**プチパレ美術館**に行く。ミレー、アングル、ドーミエ、コロー、ギース、クルーベ、セザンヌ、ルノワール、ドガ、ゴーガン、ボナール、ロダン、マチス等。

ロダン美術館、を見たあと、**ギャラリー・シャルパンチェ**でコロー、クールベ、セザンヌ等の名作を見た。

◆6月7日（パリ）**クルーニ美術館**を見る。

バルビゾンの森は實に廣い。コローなども描いた場所だ。森を通りすぎてミレーのアトリエやルッソーのアトリエを見る。

◆6月9日（パリ）午後は荻須氏の案内で畫商巡り、モデリアニ、ドラクロア、ボナール、ビヤール、エジプトの彫刻、ギリシャのヴィナスの首等を見る。

◆6月13日（アメリカ、ボストン）**ボストン美術館**を見る。エジプトの彫刻最も多く、東洋美術としては日本、支那、朝鮮のものがある。フランス印象派の繪も見た。

◆6月14日（ボストン）ガードナー女史が建てた美術館を見た。これは60年前、イタリーのゴシック式六階建の古い大邸宅を移築し、チチアン、チントレット、ラファエル、レンブラント、ルーベンス等の名畫を陳列したものだが、遺言によつて陳列替は絶対にできない。當時五千萬弗を使つたという大したものである。

◆6月22日（ワシントン）午後**フィリップ・ギャラリー**を見る。フランス印象派、コロー、ドラクロア以後のものが多く、私設としては名品揃いである。フィリップ氏はピッツバーグの製鐵業で大資産を作つた人である。

次に**フリーア博物館**に行く、こゝはフリーア氏個人のコレクションを寄附したものであるが、日本古美術が多數陳列されているので有名である。

他に**コーコラン美術館**があり、繪畫彫刻を多く陳列している處で、先年參觀したが、今回は時間の都合で割愛した。

◆6月23日（ワシントン）**ナショナル・ギャラリー**を見る。古典畫はチチアン、チントレット、ルーベンス、近代畫はフランス印象派を主流とし、三年前見たものと大差なし、この美術館の建築は二千萬弗を要したが、全部メロン氏の寄附によるものである。同氏は美術館、研究所等に資産全部を寄附された。

◆7月1日（シカゴ）四時より**シカゴ美術館**を見る。（先年も見たところ）古典畫はグレコ、チチアン、チントレットより、近代畫はセザンヌ、ロートレック、ゴッホ等多數の名作がある。

◆7月3日（シャトル）11時**シャトル美術館**に日本美術展開催準備中の嘉門氏を訪ねた。此美術館は、シャトル一番の名家フーラー氏が建物とコレクション及び基本金を市に寄附し、基本金收入により經常費を賄つている。母堂が東洋美術に深い趣味をもち、フーラー氏自ら現館長として經營に當つている。

嘉門氏の話では、五月にニューヨークのメトロポリタン美術館で、ドイツからミロのビナスを1800萬弗で買入れたものの陳列除幕式が、ニューヨークの名士200名餘參列して實に盛大に行われ、嘉門氏も招待されたとのこと。ルーブルに在るミロのビナスとは姉妹のもので、少し若いとの鑑定で、三千万弗の價値は充分あると聞き、美術に如何に熱心であるかに驚いた。

土曜講座

開催回数 47回 参會者通計 8843名

月日	講座	講師
1.10	美術雑感	長 與 善 郎氏
1.17	美術雑感 松方コレクションのことなど	松 方 三 郎氏
1.24	フランス美術に就て	ラ イ ト氏
1.31	ピカソに就て 映画「ピカソ訪問」	富 永 惣 一氏
2. 7	南歐の風光と藝術 (スライド使用)	阿 部 徹 雄氏
2.14	近東、中東の美術行脚 (スライド使用)	江 上 波 夫氏
2.21	テープレコード ○ブラックを訪ねて ○モンパルナスの今昔 (カフェードムにて)	ラジオ東京提供
	出席者 佐 藤 敬 岡 本 太 郎 マダム・マサコ、シモン・モンザン 町 田 満 男 の諸氏 天然色スライド「バリ所見」 (石橋幹一郎氏撮影)	
2.28	美術研究討論會 東西美術の比較	説明 石 橋 幹一郎氏 今 泉 篤 男氏 猪 熊 弦一郎氏 富 永 惣 一氏 谷 信 一氏
3. 7	日常生活と美	伊 原 宇三郎氏
3.14	近代藝術と生活面	宮 下 孝 雄氏
3.21	ヨーロッパ美術界雑感	宮 本 三 郎氏
3.28	松方コレクションの作品	石 井 柏 亭氏
4. 4	松方コレクションに就て	松 方 三 郎氏
4.11	舊松方コレクション特別展を見て 鼎 談	今 泉 篤 男氏 野 間 清 六氏 隈 元 謙次郎氏 河 北 倫 明氏
4.18	舊松方コレクション特別展陳 列品の解説	大 久 保 泰氏
4.25	舊松方コレクション特別展示作品中 レンブラント、ルーベンス、マネー の作品に就て	富 永 惣 一氏

5. 2	フランドル派より印象派へ	山 田 智三郎氏
5. 9	欧州みやげ 映画 庭園、陶器	石 川 達 三氏
5.16	クートーに就て	土 方 定 一氏
5.23	ドカと踊子	龜 井 勝一郎氏
5.30	藝術の新しい使命 フランス畫家 ヴァン・エック氏	
6. 6	繪畫の鑑賞	久 保 貞次郎氏
6.13	イタリアの古寺 (スライド使用)	板 垣 鸞 穂氏
6.20	フェノロサと日本美術	久 富 貢氏
6.27	映画「竹」「紙」「夏の美術學校」	
7. 4	大正期の畫家	今 泉 篤 男氏
7.11	藝術の價值轉換	岡 本 太 郎氏
7.18	欧州みやげ (カラーズライド使用) ベンナレ展作品其他	益 田 義 信氏
7.25	映画「ルッソー」「マイヨール」 「梅原龍三郎」	
8. 1	工藝の價值	柳 宗 悅氏
8. 8	雑感	青 山 二 郎氏
8.15	印象派 映画「ロートレック」	大 久 保 泰氏
8.22	セザンヌ、ゴッホ、ゴーガン (後印象派) (スライド ゴッホ)	今 泉 篤 男氏
8.29	フォビズム(野獸派)	伊 原 宇三郎氏
9. 5	立體派抽象派	柳 亮 氏
9.12	未來派、表現派其他	徳大寺 公 英氏
9.19	ダダイズム、超現實派	植 村 鷹千代氏
10. 3	エコール・ド・パリ(巴里派)	富 永 惣 一氏
10.10	歐米の美術館を訪ねて	嘉 門 安 雄氏
10.17	戦後のフランス繪畫	富 永 惣 一氏
10.24	十八世紀のフランス繪畫 (スライド使用)	坂 崎 坦氏
10.31	美術雑話	渡 邊 紳一郎氏
11.21	美術漫談	宮 田 重 雄氏
11.28	色のソルフェージュ	稻 村 耕 雄氏
12. 5	フランスの芝居	鈴 木 力 衛氏
12.12	美術雑話	青 野 季 吉氏
12.19	漫画漫談	近 藤 日出造氏

○レコードコンサート

4月5日から毎週日曜日（6月20日からは毎週土曜日）午後レコードコンサートを開催した。

開催回数 47回 参加者通計 8843名

○展覧会場新設

講堂を急遽展覧会場に變えることが出来る様設備をし、委員会で認めたものに限り貸與することにした。

尙11月3日——15日まで、毎日新聞社主催で、レーモン、クレーン兩氏作品展に貸與した。

報 雜

◆シャトル・アート・ミュージアム

Exhibition of Japanese Painting and Sculpture.
Seattle Art Museum (News and Notes)

◆トレド・アート・ミュージアム

Museum News

Number 138, Through 146, 1953

◆芦田 均氏

Encyclopedie Francaise XVIII

◆岩波書店

少年美術館 I—VI

◆結城素明氏

同氏著 藝文家墓所認

◆河出書房

現代世界美術全集

贈呈圖書

○駐日各大公使館領事館等に當館「カタログ」を贈つた。

○石橋正二郎氏が刊行された東北大學教授近藤正二氏の「長壽と食習慣について」を會場で希望者に頒ち諸方から感謝されている。

寄贈圖書

◆ニューヨーク、モダンアート・ギャラリー

Painting and Sculpture Acquisitions.

July. 1, 1950 Through June 30, 1951

15, Americans.

Picasso his graphic art Redon drawings and
Lithographs.

Painting and Sculpture Collections.

◆メトロポリタン・ミュージアム

Bulletin

January, 1953 Through December, 1953

美術映画の製作

我が美術界の巨匠達の製作を中心とした生活を映画をもつて記録しておくことは、親しみと理解を深めることに於て、また後世まで残すことに於いて、大きな意義があることは、すでに認められ、各方面で企畫されながらも種々な理由で實現を見なかつた。我が美術館は本年度に於いて映画委員會を創設し、萬難を排してこの貴重な記録映画の製作を開始した。

第一回作品が「梅原龍三郎」で7月23日當館講堂で試寫會を、また第二回作品「川谷玉堂」を12月10日同所で試寫會を催し、第三作「高村光太郎」の撮影が今年度の仕事であつた。

（映画）梅原龍三郎

梅原龍三郎氏のアトリエは牛込加賀町にある。映画はこのアトリエの紹介から始まる。梅原氏が繪を描かれるところは誰れにも知られていなかったが、この映画で初めてそのアトリエにカメラが訪れたのである。

梅原氏は東洋の顔料を使つて壺と果物の靜物の製作を始める、筆は洋画の筆である。

京都の生家、京都第二中學時代、淺井忠氏の研究所時代、こゝでは安井曾太郎氏も同門で、その貴重な記録寫眞も收録されている。

スタッフ

製作	石橋幹一郎
監修	ブリヂストン美術館 映画委員會
構成脚本	小谷博貞
演出撮影	高場隆史
音楽	福見潤
解説	高橋博

1908年、巴里に渡る、そこで21歳の青年梅原はオーギュスト・ルノワールの美に打たれ、自らの画家としての位置を確立することになり。その記念的作品「臥裸婦」「モレーの秋」「首飾り」等第一次滞欧作品が紹介される。そして主要な作品と共に、近年益々美しく絢爛豪華となつた作品が、バラの製作を中心に語られる。例えば各年代の作品中代表的な裸婦が分解され、風景画についてもカメラは映画的な見方から新しい美しさを訴える。

篇中にはまた1952年、梅原氏が三度目に訪れた巴里で一緒になつた高峰秀子さんがアトリエに訪れたのを機にデッサンする情景も収められている。

映画はバラの繪の完成をクライマックスに、金箔の上に描かれた富士の豪壯な姿をエピローグとして終る。

(映画) 川 合 玉 堂

ス タ ッ フ

製 作	石 橋 幹 一 郎
監 修	ブリヂストン美術館 映 画 委 員 會
脚 本	小 谷 博 貞
出 演	高 場 隆 史
撮 影	福 田 蘭 童
音 楽	高 橋 博
解 説	高 橋 博

川合玉堂さんの画室は、東京都下西多摩郡御嶽にある。それは遙かに秩父の山々に連なる谿谷に、清流が岩をかむ山村である。

朝の山、まだ陽光が東からの斜線を美しく樹間に放っている頃、玉堂さんは自製の杖を手に、これも自案になる特別な和服姿で、蓑わら帽をかぶつて裏山を寫生して歩いている。

玉堂さんは明治6年11月(1873)に愛知縣木曾川町に生れ、15歳の若さで兩親の許を離れ、繪画の道を志して京都に出、それから80歳の今日(1953)まで、藝術への厳しい歩みは絶え間なく続けられて來たのであつた。始め京都で四條圓山

派の系統を引く望月玉泉、續いて幸野樸嶺の門に入つて日本画の基礎を學び、24歳の時、師を失つてさらに橋本雅邦を慕つて東京に移り、こゝで狩野派の画風を研究した。

映画の中におさめられた作品は、35歳の時の「二日月」、62歳の時の「峰の夕」、67歳の時の「彩雨」の三點である。山、川、木、岩、玉堂さんは若い時から自然の中に住み、深く自然をみつめて、自然のさまぎまの姿が頭の中に生きている。それら自然の姿が玉堂さんの頭の中で一つの構想としてまとまり、自然を歌う繪となつて画面に生れて來るのである。多摩の河原の寫生から、繪を描く玉堂さんの姿が快くレンズに収められてゐる。

映画の中で「私は生來自然が好きで、自然を描いて來たが、旅人のような眼で見ていたのだつた。この奥多摩に住むようになって、ようやく自然の姿がわかつて來たような氣がする。これから朝に夕に、自然を師とし友として描きつゞけてゆきたい」と語る画人玉堂の、ある日の姿を記録したものである。

(映画) 高 村 光 太 郎

中野のアトリエで、十和田湖畔に建つ大裸婦像を製作中の高村さん、また岩手の山小屋で村人と共に生活する高村さんを撮影、完成は次年度に繰越。

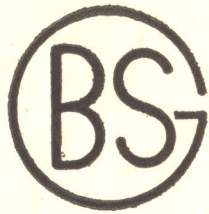
昭和28年度館報

ブリヂストン美術館

東京都中央区京橋一の一

BRIDGESTONE GALLERY

1-1 KYOBASHI, CHUOKU, TOKYO, JAPAN



東京都中央区京橋1ノ1
ブリヂストン美術館